



**シラバス参照**

タイトル「**2017年度 観光学部シラバス**」、フォルダ「**2017年度 観光学部シラバス**」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	観光と景観保全		
担当教員	<a href="#">永瀬 節治</a>		
対象学年	2年	クラス	T1
講義室		開講学期	後期
曜日・時限	火3	単位区分	選必
授業形態		単位数	2
準備事項			
備考			
科目名 (英語表記)	Landscape Conservation and Tourism		
授業の概要・ねらい	<p>地域のありようを映し出す景観は、個性ある地域づくりを行なう上での重要な手がかりとなるものです。多様な景観の価値を地域で共有するためには、それを客観的に捉える視点が必要となります。本講義の前半では、景観概念の捉え方とともに、日常の風景の読み解き方、その特色を具体的に記述・評価するための視点、さらに現在の都市計画や景観法のもとでの保全手法について学びます。後半では、日本の景観保全の歩みをたどるとともに、伝統的建造物群保存地区や近代化遺産、文化的景観、世界遺産など、歴史的環境を保全するための具体的な手法と仕組みについて学びます。景観まちづくりの具体的な事例も交えながら、地域の景観を守り育てる取り組みへの理解を深めます。</p>		
授業計画	回	内容	
	1	ガイダンス：景観、風景、まちなみ	
	2	日本と西欧：風景へのまなざし	
	3	日常の風景を読み解く（1）：地形、水系、緑	
	4	日常の風景を読み解く（2）：都市の形態と形成史の把握	
	5	景観を分析・評価する視点	
	6	都市計画による景観保全の手法	
	7	景観法成立に至る動向	
	8	景観法と景観計画	
	9	中間レポート発表	
	10	日本における景観・歴史的環境保全の歩み	
	11	伝統的建造物群保存地区の仕組み	
	12	多様な歴史的環境の保全手法（1）：条例・協定、歴史まちづくり法	
	13	多様な歴史的環境の保全手法（2）：近代化遺産と登録文化財	
	14	世界遺産と文化的景観	
	15	まとめと試験	
到達目標	「景観」を客観的に捉え、その特色を評価する視点とともに、具体的な景観保全の手法を学ぶことで、地域の文脈に応じた多様な景観を守り育てるための考え方を身につける。		
成績評価の方法	中間レポート50%、最終試験50%		
教科書	特に指定しない。		
参考書・参考文献	講義の中で適宜指示する。		

履修上の注意・メッセージ	日頃から、自らが暮らす地域の風景に関心を持つとともに、国内・海外を問わず、旅先でのさまざまなまちなみ・風景に積極的に目を向けておくことが、講義の理解に役立ちます。なお講義の内容・順序は一部変更することがあります。
履修する上で必要な事項	
受講を推奨する関連科目	
授業時間外学習についての指示	毎回の講義で配布されるレジュメを読み返し、そこで示された景観保全に関する考え方をキーワードをおさえながら復習するとともに、身近な地域での取り組みについても積極的に調べ、理解を深めること。
その他連絡事項	

